# HyGTA2専用シミュレータ用のログ解析ツールの使い方

コンピュータアーキテクチャ研究グループ B4 萱沼 颯

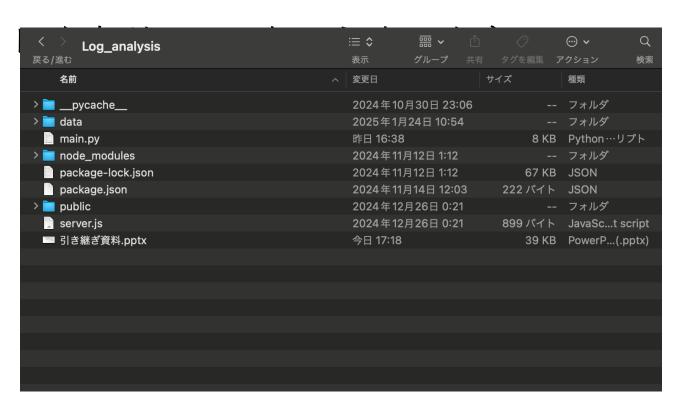
### インストールが必要なもの

- Python (v3.12.2)
- Node.js (v22.9.0)

## 下準備(完全に初めて使う場合)

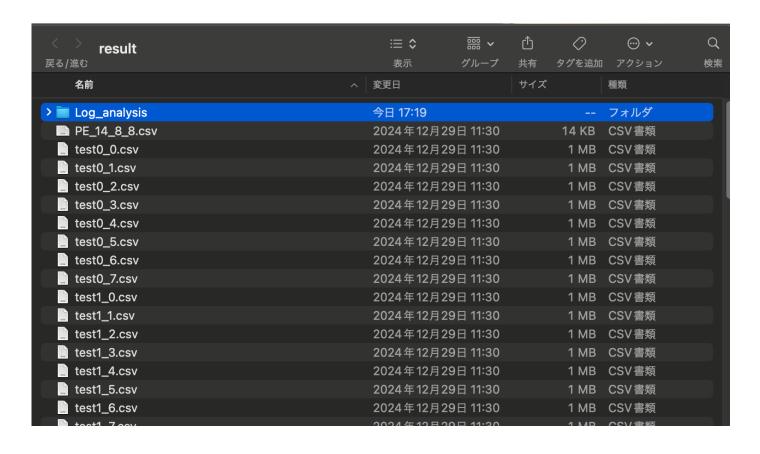
• GitHub(https://github.com/So-213/Log\_analysis) からログ解析ツール (Log\_analysis)をダウンロード

- Log\_analysisのルートディnpm installを実行
  - 依存パッケージを一括 インストールする(必須)
  - 実行後に"npm\_modules" フォルダが生成される



#### 使い方1-1 (解析から行う場合はここから)

ログ解析ツールをログファイル群と同ディレクトリに置く



## 使い方1-2

- ターミナルからpython3 main.pyを実行
  - ログファイル群の解析をするPythonスクリプト
  - 各標準入力項目については次ページ参照

```
kayanuma@makku ~ % cd /Users/kayanuma/Desktop/result/Log_analysis
kayanuma@makku Log_analysis % python3 main.py
scale:14
PE行列の行(列)数:8
モジュール数:9
アニメーションのためのファイルを作成しますか?(T/F):T
データをとるモジュールindex(1~):4
各深さのサイクル数をカンマ区切りで入力してください(例: 25,389,2668,841,34)(わからない場合はそのままEnter): 63,2803,11242,1532,32
分析中...
完了しました
kayanuma@makku Log_analysis %
```

# Python3 main.py時の標準入力について1

モジュール数・・・ PE内部のモジュール数のこと。csvファイルでは列数のこと (現状9)。

・データをとるモジュールindex・・・稼働率平均値/中央値/分散をどのモジュールでとるか(迷ったら4).

• 1: local frontier bitmap

• 2: working frontier

• 3 : extract vertices issue receiver

• 4: traversal

• 5: filter pred data issue

• 6: unvisit

• 7: filter pred data issue receiver

• 8: Allgather

• 9 : Allto All

test0\_0

9列

0	Send	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	
1	Wait	Receive	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	
2	Wait	Send Allgather	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Receive	Wait	
3	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Send Frontier	Wait	
4	Wait	Receive Alltather	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	
5	Wait	Send -1	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	
6	Wait	Wait	Receive	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	
7	Wait	Wait	Wait	Send End	Wait	Wait	Wait	Wait	Recieve End	
8	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Wait	Sync	

# Python3 main.py時の標準入力について2

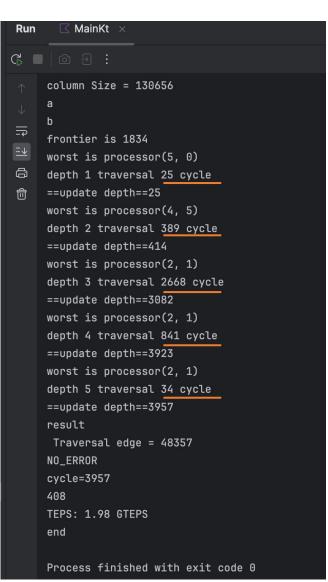
各深さのサイクル数・・・ 専用シミュレータのターミナルから情報取得.

例えばPEアレイ8×8の64の場合 (PE数とグラフスケールによって変わる)

Scale10 18,97,706,262,23

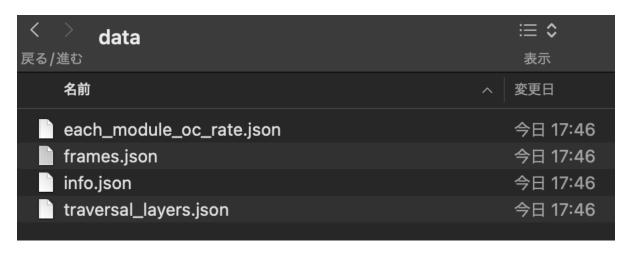
Scale12 25,389,2668,841,34

Scale14 63,2803,11242,1532,32



## 使い方1-3

- うまく実行できるとdataフォルダに4ファイル(3ファイル)生成される
  - each\_module\_oc\_rate.json・・・各PE内部の各モジュールの稼働率を格納
  - frames.json・・・PE挙動アニメーション用(作成しないモードでは生成されない)
  - info.json・・・色々な情報を格納. 特に指定したモジュールの稼働率平均値/中央値/分散がaverage/median/varianceに記載.
  - traveral\_layers.json・・・各PEの指定したモジュールに対して, 各深さでの稼働率を格納



#### 使い方2-1 (閲覧のみ行う場合はここから)

- ターミナルからnpm startを実行
  - ローカルホストでサーバを設置し,ブラウザからアクセスしてくれる.

